

SFC キャンパス・アクティビティ助成 成果報告書

環境情報学部 3年 廣瀬和真

・活動名称：第1回 食と農から見据える地域と SFC

※申請時の名称「長谷部研究会 オコメンプロジェクト主催 SFCとSFC 周辺地域の未来を考える会」から変更しました。

・活動日時：令和6年1月26日(金)～令和6年1月27日(土)

・活動場所：未来創造塾2棟 及び 御所見ハウス(藤沢市用田 638)

・参加人数：延べ21人(参加者名簿は別紙参照)

・活動目的：長谷部研究会は日々のフィールドワークを通じて遠藤地区や御所見地区の方々と2016年から関係性を構築してきた。サステナブルキャンパスプログラムが発足した現在、長谷部研の枠を越えて地域と大学の協力関係について議論する必要がある。今回は学生・教職員の方々と地域の何に価値を置いて、どのように大学との連携を活発にするか議論を行った。

・日程

1月26日(金)			
	18:00	開場、受付開始	SBC2棟 滞在棟
①	18:30	自己紹介	
②	19:00	夕食	SBC2棟 キッチン棟
③	21:00	明日の朝食調理	
	22:00	就寝	
1月27日(土)			
	7:00	起床	SBC2棟 滞在棟
	7:00	朝食調理	SBC2棟 キッチン棟
④	8:00~	地域探索フィールドワーク	
	11:45	到着	
⑤	12:00	地域とSFCを繋ぐ拠点考察ワークショップ(昼食)	御所見ハウス
	15:00	閉会、解散	
	17:30	SBC撤収作業、閉錠、鍵返却	

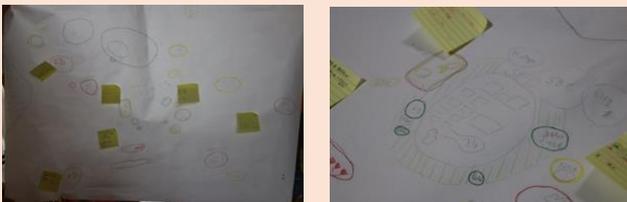
・活動詳細

①	教職員含め参加者全員が集まり、どのような研究活動を行っているかなどの自己紹介をした。	
②	夕食は、遠藤・御所見地区の生産者の方々と提供いただいた野菜と私たちオコメンプロジェクトが収穫した米をふんだんに使用した。食と農を通じて遠藤・御所見地区を見つめ直す機会になったほか、自然なコミュニケーションが醸成された。	
③	翌日以降の活発な議論の下地となるチームビルディングを目的とした、調理ワークショップを行った。夕食と同じく遠藤・御所見地区で生産された野菜をふんだんに使用することで、当該地区を知る機会になったと同時に、参加者同士がより知り合い議論が生まれる関係性を構築した。	

④	<p>地域を知るという目的で、長谷部研究会が関係を構築してきた各所を歩いて回った。(株)永田農園、宇都母知神社、妙福寺、御所見ハウスのルートを通った。今まで実際に足を運ぶことのなかった参加者や自身の研究活動で訪れたことのある参加者がいたが、改めて食と農の視点から当該地域を実際に知る機会となった。</p> <p>また御所見ハウスとは、長谷部准教授を中心に学外と学内の交流を生み出すための様々な域学連携活動を展開している拠点である。</p>	 
⑤	<p>「自分が何をやりたいか、自分があつたらいいなと思うものは何か」を念頭に地域と大学の交流拠点を構想するワークショップを開催した。地域探索とその感想共有を経ることでイメージが膨らみ、各人の興味関心分野や専門性と御所見ハウスという実例から着想を得た構想が完成した。詳細は下記の活動成果に記載する。</p>	

・活動成果

地域と大学を繋ぐ拠点の構想として、3つの案が形成された。

① 「一冊で全てわかる SFC×地域マップ」	
<p>長谷部研究会の他にも、生態調査や高齢者福祉などで地域と関わりを持つ研究会は多い。それぞれの学びを持ち寄った SFC 周辺マップを作り、新たに SFC に来る学生たちに域学連携参加のきっかけを提供したい。</p>	
② 「休憩も実験もできる、近未来アイデアファーム」	
<p>環境エネルギーを専門にしている教員と学生を中心に、営農型太陽光発電を兼ね備えた畑の案が作成された。エネルギーに関する研究フィールドとしての活用も期待できるほか、学生や周辺地域の方々が休憩できるスペースも兼ね備えている構想となっている。</p>	
③ 「自然と人が集まる、みんなの畑」	
<p>拠点に隣接する畑に関する案。畑には無人販売所やベンチを設置し学生と地域の方どちらも気軽に休憩して交流が生まれる場所を想像している。収穫した野菜は拠点を利用する学生が自由に扱うほか、休憩所で振る舞うことも想定している。</p>	

・最後に

本取り組みでは、SBC から御所見ハウスという地域と大学の文化が交わり実践的な取り組みが行われている拠点まで実際に移動することで、食と農から見る域学連携型サステナブルキャンパスの具体的なイメージが参加者全員に共有されました。いずれの案も御所見ハウスという実例や各々の研究分野をもとに提案された実現可能性が高いものであるだけでなく、地域と大学の持続的な関係性づくりという要素を満たしています。今後、本取り組みに参加した教職員や学生に加え新たな参加者を巻き込んでいき、今回の提案を段階的に実現させ、持続的に地域と大学の関係性を育み、食と農を切り口にした地域と共にあるサステナブルキャンパスアイデアを学内に波及させていきます。

最後になりますが、本取り組みをご支援いただいた慶應 SFC 学会「SFC キャンパス・アクティビティー助成」に心から感謝申し上げます。